

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

「教室不足」「教員不足」解消に向け 支援学校の抜本的増設を

手話通訳配置、老朽化施設の改修、教員加配などを要求

大障教課別交渉

(支援教育課・施設財務課)

1月30日、大障教は支援教育課・施設財務課と課別交渉を実施しました。

交渉には、15分會より1人が参加し、手話通訳配置、支援学校増設、教室不足解消、トイレの改修・増設、大規模校への教員加配、特別支援学校設置基準の不適合解消などを求めました。交渉における主なやりとりと回答をお知らせします。

公開研修会に手話通訳の配置を

だいせん聴覚高等支援分会が、教育庁主催研修会以外の学校公開研修にも合理的配慮から手話通訳の配置を求めました。府教委は、予算の関係ですべての研修に配置できないとしました。しかし、だいせん分会の追及に対して、「学校から要請があった場合、学校の状況に応じて派遣を検討する」としました。



あいさつする
西面委員長

また、だいせん分会が新転任者に対する手話の集中的講習の実施を求め



だいせん聴覚支援分会
世森さん

ました。府教委は、「学校の状況や事情、意見等も聞きながら、引き続き、どういったことができるのか考えたい」としました。加えて、だいせん分会が、生徒の要望に応じて手話通訳の派遣を求めました。府教委は、「子どもたちが、少しでもわかりやすい授業となるような情報保障のあり方について、学校から相談があれば、できることを検討していく」としました。



集まれば元気！専門部のとりくみ

2月8日に、大障教栄養教員部で「給食のつどい～手作り教材づくり&交流会～」を開催しました。栄養教諭・栄養臨時技師が、未組合員の方を含めて9名参加しました。

「野菜シルエットクイズ」や「パクパク人形」を作りながら、終始和やかに交流しました。交流のなかで「食物アレルギーの個別相談が増えて、特に校外学習の外出がとても大変」「給食時間での教

室巡回が緊張する」「給食委託業者への業務評価で、低い評価をつけたら、クレームがきて時間がとられてしまう」など、限られた時間のなかでしたが、ひとりひとりの悩みを共有することができました。

栄養教諭・栄養臨時技師は、ひとりひとりで問題を抱え込んでしまいがちです。一人職だからこそ互いのつながりがもてる場や、組合活動を知って理解いただく機会をもてるようにできたらと思います。

児童用トイレの増設を

寝屋川支援分会が、小学部児童数が、この10年間で3倍に膨れ上がっているにも関わらず、トイレの数が増えておらず、休憩時間だけでトイレを済ますことができない実態を訴え、トイレの増設を求めました。

府教委は、「喫緊の課題」との認識を不す一方、「元々の校舎の面積の中に、トイレが適正配置されているが、



寝屋川支援分会
山岡さん

それを超えて生徒、子どもたちの教室というところで転用しており、(校舎の)構造的に増設できるか慎重に考える必要がある、必要な措置に努める」と述べるに

とどまり、改善の具体策について回答しませんでした。

書記局の musuju

「わからないことをわかっていないと、わからないことはわかりません」

テレビドラマ「テミスの不確かな法廷」で、松山ケンイチさん演じる安堂清春の口癖。安堂清春は、自閉スペクトラム症と注意欠如多動症で、裁判官の職務に愚直に向き合う主人公。

私は、録画して観ています。冒頭の言葉を聞いたとき、教育にも通じると思いました。子ども理解に関して教育的に言い直せば、「わからないことをわかっていないと努力しなければ、子どもの本当のねがいはわかりません」となるでしょうか。

子どもの問題行動に直面し、その理由が理解できず、手立ての糸口が見いだせない時、教師には子どもの問題行動の理由をわかってもらう努力が試されます。それは、問題行動が、子どもの発達要求を背景にしているからです。

話は変わりますが、子ども理解に関して白石恵理子さん(滋賀大学)が次のように述べています。「自閉症の子が水の動きをじっと見るのは『こだわり』で、同じことをダウン症の子がしている『がんこ』になり、障害のない一歳児がやっていると『お水であそぶの楽しいね』となってしまうことはないだろうか。そこに何らかの共通性があるのではないかと見ていくことで、『こだわり』や『がんこ』に対する見方も変わることがある。」

子ども理解において、「障害」とその特性を知ることが大切です。しかし、「障害」という窓から子ども理解をすすめる、子どもの本当のねがいと、子どもの人格理解から外れる可能性が生じます。

「わからないことをわかっていないと努力すること」を大切に、教育実践をすすめていきたいですね。(久)

大障教 課別交渉 (表面の続き)

北河内地域に学校増設を



枚方支援分会
林さん

寝屋川支援分会は、この間の児童生徒数の増加実態、転用教室および教室不足実態、いびつな通学区区域実態、寝屋川市議会および門真市議会における支援学校増設「意見書」採択を発言し、北河内地域にさらなる支援学校建設を求めました。続いて枚方支援分会が発言し、昨年度で13教室を普通教室に転用していること、大規模校化といびつな通学区区域で高等部生徒の割合が低下し、それに伴い教職員定数法の関係から教員配置が減少している問題を発言し、改善を求めました。

府教委は、計画は進むため、確定時期は明言できないとしつつ、「実施設計が終わる時期が目安」と回答しました。また、本校化における教室配置等の意見について、「引き続き学校を通じて聞かせていただきながら、検討を進める」としました。



四條畷校分会
鈴木さん

四條畷校分会が、四條畷校の本校化における教室配置の確定時期と教室配置における教職員、保護者・関係者との合意形成を求めました。

四條畷校の本校化について

四條畷校分会が、四條畷校の本校化における教室配置の確定時期と教室配置における教職員、保護者・関係者との合意形成を求めました。府教委は、「具体的な計画が決まったものではありません」としました。

教室不足解消、トイレの整備を



光陽支援分会
山内さん

府教委は、「具体的な計画が決まったものではありません」としました。

光陽支援分会が、深刻な教室不足実態を発言し、校舎面積の特別支援学校設置基準不適合について、府教委の見解を求めました。府教委は、「設置基準適合と

いう観点では、知的障害以外の障害種の学校についても、(不適合を)どのよう

が、具体的方策の回答を求めましたが、府教委は回答せず、検討を行うと述べるにとどまりました。

また、光陽支援分会が、来年度も児童生徒数が増加する見込みであること、子どもたちの授業場所確保が

適切な通学区区域割について

大障教執行部が、茨田高校跡地と豊中の新校の通学区区域割発表について質問し、府教委は、(2026年度

通学区区域割を変更する必要があるのかも踏まえ、検討しているところ」と

て発表すべきではないかとしました。府教委は、「地域が隣接しており、連動するところ、しないところを

の)発表を指摘しているとしました。大障教が、生野支援学校の新築・移転に伴う通学区区域割について質問し、府教委は「移転と合わせて規模を少し大きくする

また、大障教が、茨田新校、四條畷校の本校化、生野の新築移転に伴う開校が1年の違いしかなく、連動

した地域であることから、大阪府全体の通学区区域割として、将来の見通しをもって

計画なので、それに伴って

大障教は、「現状の計画は、それぞれの開校2年前に公表するスケジュールを進めています」としました。

寄宿舎教員の採用試験実施を

南視覚支援分会が、寄宿舎教員の年齢構成のいびつ化、講師比率が異常に高く、そのために宿直勤務を組む

四條畷校分会は、本校化における民間への貸し出しスペースについて、特別教室の不足が予想されるため、貸し出せる場所はないと指

会答申では、現在3校に設置している寄宿舎について、今後その機能維持に努めていく必要があるという方針を踏まえ、検討を進める」と述べるにとどまり、採用試験再開を明言しませんでした。



南視覚支援分会
井原さん

府教委は、「北河内、その他の学校も含めて、子どもたちの教育環境が十分に担保できていない、詰め込みの状態であり、特別教室不足の現状で、子どもたちにとって大変な状況であることは認識しており、重く受け止めている」としまし

府教委は、「学校教育審議会」で視覚聴覚支援学校における今後のあり方について議論を深めてきた。審議

府教委は、「学校教育審議会」で視覚聴覚支援学校における今後のあり方について議論を深めてきた。審議